

令和5年度学校評価報告書

令和6年（2024年）3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道岩見沢農業高等学校長 野 村 博 之

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 新学習指導要領を基盤とし、目指す生徒像・各学科の目標を達成できる教育課程を編成・実施する。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善と観点別評価の徹底を図る。
- (3) 生徒の多様化に対応し、教育相談や家庭・地域との連携を通して、目的意識を持たせ学習意欲を喚起、高校生のための学びの基礎診断等を活用し基礎学力の向上を図る。
- (4) 恵まれた学校の施設設備を活用し、学科の特性を生かした実験実習を通して専門分野への興味・関心を高めるとともに課題解決学習を推進する。
- (5) 生徒会・農業クラブ活動を通して、自主的な活動を推進し、校風の高揚と生徒相互の友愛・協働の態度を育てる。
- (6) 日常の生活指導を通して、健康で安全な生活を営む意識を高め、自他の生命人権を尊重する態度を育てる。
- (7) 体系的かつ実践的なキャリア教育を通して、基礎的・汎用的能力の育成及び勤労観・職業観を醸成する。
- (8) 農業経営者育成教育においては、寮生活を通して集団生活の意義や農業実習を通して、農業に取り組む積極的な態度を育てる。
- (9) 部活動休養日・勤務時間の割振りの徹底、年休取得率の向上等働き方改革を推進する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	○ P T A行事への参加者が減少傾向にあるが、学校祭におけるPTA模擬店の出店により、2日間で延べ30名の参加者となり、生徒の活動を見ていただくと同時に、保護者同士のつながりもでき、役員研修旅行は約20名の参加者となった。 ○ 夏期休業中に部活動体験会を開催し、50名弱の中学生が来校し、部活動体験に参加した。 ○ 中学校からの依頼により市内5校、市外8校の説明会に参加した。こちらからの声かけによって依頼をいただいた学校もある。	○ 入学希望者を増やすためにも、地域の方々や小中学生の保護者に向けた情報発信を一層充実させることが必要である。 ○ ホームページやSNSでの情報発信を工夫し、生徒の声や意見を取り入れて、学校の良い所をアピールする取組を望む。 ○ 部活動をもっとPRすることを望む。
改善方策	○ 総会、PTA研修会、地区懇談会、学校祭、役員研修旅行の参加者増に向けての取組の充実を図るとともに、体験入学をはじめ、中学生が来校する機会を設定する。 ○ 市内、南空知管内からの入学生が60%程度となっており、北空知への生徒募集強化で入学者を増やす。	
学習指導	○ 令和7年度入学生教育課程及び令和6年度教務規程の見直しについて、適宜実施することができた。 ○ 授業時数の確保のため、年間行事予定に余裕がなく、校内研修を適切な時期に実施することが困難であった。	○ 様々な実験・実習、外部講師による指導や講演などを効果的に組み合わせるよう工夫し、生徒の学習意欲をレベルアップさせていくことを望む。 ○ 授業改善については、BYODを活用した授業に積極的に取り組むことを望む。
改善方策	○ 学習指導要領改訂に伴う新教育課程完成年度に向け、校内研修の充実を図ることにより、観点別学習状況の評価についての方針や理念を共有していく。 ○ 授業改善を進めるため、計画的に校内研修を実施する。	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
生徒指導	○ いじめを積極的に認知し、問題発生時は組織的に取り組むとともに、遅刻のスマホ預かりや遅刻指導、遅刻カードの導入で安易に遅刻する生徒が減少した。 ○ 昨今の価格高騰で制服に関しても同様の状態となった。その中で、来年度よりブレザーのマイナーチェンジ、ワイシャツの見直しなどを行うことにより、価格を抑えることができた。また、以前より課題だった女子の夏ベストも夏服の導入により改善していく。 ○ ジェンダーフリーの観点から来年度から女子のリボンを廃止しネクタイで統一する。 ○ 4年ぶりにマスクなしで、通常通りの学校祭を開催できた。また、総務部と連携し、PTAからも出店してもらい、生徒の様子を見ていただく機会となった。	○ いじめやトラブルの防止の観点から携帯電話・スマートフォンの使用に関する指導の継続を望む。 ○ 学校の生徒指導に対する保護者への説明や情報提供に一層取り組み、より多くの保護者の支援や協力を得よう取り組むことを望む。 ○ 暑さ対策の服装なども含め、状況に応じたルール変更への検討も望む。
改善方策	○ スカートをマイナーチェンジするとともに、夏生地を導入を進めていく。 ○ 今年度、校内規定の見直しを行ったが、校則を含む規定が現状に合ったものかは常に確認していく必要がある。	
進路指導	○ 就職については、コロナ5類移行による環境の変化による対応が予想された中、生徒は健闘した。応募前見学が定着した。 ○ 進学については、4年制大学・短期大学合格者が横ばいで、専門学校が増加した。生徒は小論文や面接に前向きに取り組んだ。 ○ 進路相談室のWiFi整備により、求人票の閲覧方法を改善し、業務の効率化を図ることができた。	○ 進路相談の時間の確保により一層取り組み、早期離職としない人材育成に取り組むことを望む。 ○ インターンシップについては、地域との連携体制と実施内容について評価できる。事前事後指導をさらに充実させ、進路実現のための日常的な努力に繋げる工夫を望む。
改善方策	○ 指定図書や課題論文により出題される傾向があるため、学科試験や小論文試験の早期対策を促すことにより、受験生である自覚を持たせる指導に取り組む。 ○ 夏季休業の長期化に伴う就職活動の日程を工夫する。 ○ 求人票閲覧の電子化と従来型紙媒体との併用については、引き続き検証していくとともに、保護者との連絡を密にし、手続き不備がないよう慎重に進める。	
農業教育	○ 地域のDX化推進に対応し、将来の地域産業人を育成するための連携事業・学習活動が多くあり、生徒も次代の農業の在り方を考え、それに関わろうとする意識も見え始めた。 ○ 学校や農業部会として、学校外での学びや学習成果の発表の場など多く設けることができ、生徒のコミュニケーション力や社会性の向上が見られた。 ○ リモートセンシング技術等のドローン活用や自動操舵トラクターの活用など時代に対応した学習の形が作られてきた。 ○ 農業クラブ全道大会・全国大会において多くの生徒が日頃の学習の成果を発揮し入賞した。資格取得にも積極的に取り組む生徒が多数いた。	○ 日々の学習の成果が、農業クラブ全国大会での入賞という結果となって現れている。 ○ 地域と協働した連携学習をさらに進めることを望む。
改善方策	○ 農業の国際化・DX化の推進については、SDGs、みどりの食料システム戦略、食料・農業・農村基本法改定に沿った取組の充実を図るとともに、ルーラル電子図書館の活用等、BYODを活用した教材の整備を行い、充実した学習環境づくりを進める。 ○ イベント等で、農業学習の成果や活動内容のPRを活発に行うことにより、本校生徒の取組を積極的にPRするとともに、新たな方向性を模索していく。	
公表方法	○ 会議等での資料配付及び口頭による補足説明 ○ 本校ホームページへの掲載	

3 添付資料

(1) 令和5年度教育計画の評価と課題

(2) 令和5年度学校評価に関するアンケート調査結果（生徒・保護者・教職員）